

14P

鎌倉幕府

守護

地頭

資料11の2

「守護・地頭の設置」

大江広元 元は公家

→公武二元支配

14P

「守護・地頭の設置」

→有力な御家人を任命

15P

御家人制度

土地を間に挟んだ主従関係

「封建的主従関係」

15P

「公武の二元的支配」

→国司(行政権)と守護・地頭(軍事・警察権)

14P

鎌倉幕府の機構

→初期の段階では、完全な武家政権ではなかった

北条時政ら北条氏が執権として、政治に参画

→頼朝の妻、政子を足がかりとして。

朝廷の動き

承久の乱

1221年 北条義時追討の宣じ

→北条氏による執権政治の確立

引付衆、評定衆(執権の補佐役)→合議制

連署→北条一族が占める

御成敗式目

1232年 北条泰時

法の支配の確立、裁判の公平化と迅速化

→頼朝以来の先例、武家社会の道理をベースにした

資料1 1の3

「貞永式目」

→派遣された地頭との間に年貢をめぐるトラブルが多かった?

→当時の女性の地位は比較的高かった?と推測される

所領を分割して相続する

→本家(惣領、総領、宗家)がまとめて相続する

惣領制、家督相続→血縁的なもので統制されていた

1 6 P

税の徴収

「地頭の荘園侵略」

地頭請

下地中分

→地頭分と領家分に荘園を分割する

地頭が徐々に荘園の支配権を実質的に手に入れる形になる。

→今までは何となく、支配していた。

資料1 2の2と3

「下地中分」「地頭の非法」

1 6 P

「蒙古襲来」

文永の役 1274年

弘安の役 1281年

当時の執権 北条時宗

集団戦法、火薬(てつほう)、毒矢

異国警護番役など

九州の御家人を中心に動員をかけた

→戦費は自分持ちだった。

→外国との戦いで恩賞が少ない

→経済的な疲弊

鎮西探題を設置し、九州の統治にあたらせる。

1 6 P

得宗専制政治

北条氏－得宗家(家督を継ぐ家柄)
内管領－得宗の直属の家臣
1285年 安達泰盛－平頼綱の争い
北条貞時が実権を握る

資料12の2と16P
「永仁の徳政令」1297年
→経済を混乱させる
→幕府に対する不満

建武の新政
持明院統と大覚寺統の争い
後醍醐天皇 天皇親政
執権 北条高時
内管領 長崎高資

北朝 光厳天皇
南朝 後醍醐天皇
足利尊氏(六波羅探題)
新田義貞(鎌倉攻め)

1333年鎌倉幕府滅亡 光厳天皇廃位

資料13の1
建武式目 1336年
政治の方針

16P
職制 鎌倉幕府とほぼ同じ機構
政治、恩賞が公家中心だった
→武家に取り戻す?

北朝 光明天皇即位
→南北朝の動乱に発展

17P
観応の擾乱 1350～52
尊氏(兄)と直義(弟)との争い
相続の仕方が、単独相続・地縁重視となってきた
→守護の役割が増していく

資料 1 4 の 2

「守護請」

年貢の徴収を守護に請け負わせる。

→地方に散らばっていく

→地位を世襲していく

→守護大名へと変化していく

地元の武士→国人

1391 年 南北朝合一

1 7 P

室町幕府の機構

管領 将軍の補佐→三管領

侍所 長官を所司→四職

鎌倉府

有力な守護大名の上ののった政権

→京都に出てきた守護は、地元守護代を置いた

室町幕府の財政

日明貿易の収益

将軍サイド

→有力守護大名の力を削ぐ

1390 年～ 1441 年

国人たち→自分たちの權益を守りたい

自治的支配をめざす。

1 9 P

惣村→自治的支配を行っている村

資料 1 5 の 1

「今堀地下掟」

→寄合で決めていく。秩序、共同体の維持

→要求をしていくようになる

資料 1 5 の 2

「正長の土一揆」

資料 1 5 の 3 と 4

「山城の国一揆」「加賀の一向一揆」

→下克上

18P

「勘合貿易と明の冊封体制」

輸出 朝貢

輸入 下賜

の形をとった

明 私貿易と公貿易を区別した

資料14の2

「日明貿易」

1401年 遣明船 祖阿(僧)、肥富(博多商人)らを派遣

朝貢貿易

1403年 足利義満 日本国王臣源 と国書に表す。

1404年

勘合貿易 日字、本字の勘合を用いた

1523年 寧波の乱

細川氏と大内氏の貿易に対する主導権争い

私貿易＝倭寇 貿易もしたが略奪もあった？

19P

戦国大名

1467年～1477年 応仁の乱

将軍の後継争い、有力守護の家督相続争い、幕府内の覇権争いが絡む

資料16の1

「応仁の乱」

守護大名は京都へ

守護代は領国(分国)の支配→戦国大名へ

国人

「下克上の動き」

戦国大名の出自

家臣団構成

資料16の1

「分国法」

領国支配、家臣団統制

座(市座)←楽市楽座

商品流通と経済発展をはかる

原材料仕入れから販売までの独占権

堺 36人 会合衆

博多 12人 年行司

の有力商人達による自主的な都市の運営を行う

ヨーロッパ人の来航と南蛮貿易

ルネサンス、宗教改革

中世から近世への流れ

旧教→布教の地をアジアに求める

1543年 ポルトガル人の漂着

種子島 鉄砲伝来→火縄銃

1549年 ザビエル 鹿児島へ来航 キリスト教

布教と貿易が一体だった

キリシタン大名

大友義鎮

有馬晴信

大村純忠

南蛮貿易

資料 17 の 2

「キリスト教の発展」

20P

キリシタン信者概数

→ 相当な勢いで増えている

1582年 天正遣欧使節出発

1590年 帰国→バテレン追放令の後だった

レポート課題

自分の今日的状況を歴史的に記述する。

→なぜ、通信教育で学習しているのか

→今後、どのように生かすのか